

式 辞

満開に近づいた桜が大きく、そして温かく私たちを見守っています。今年も希望に満ちた春がめぐってきたことを実感いたします。

この輝くような春の日に、2019年度、相愛中学校、相愛高等学校入学式を挙行いたしましたところ、浄土真宗本願寺派総務 池田行信さま、津村別院ご輪番 木下慶心さま、相愛大学副学長 中村圭爾さま、同窓会、育友会、後援会各会の会長さまや多くのご来賓の方々のご臨席を賜り、高いところからではございますが、厚くお礼申しあげます。

中学校新入生 38名、高等学校新入生 102名の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは人生の大きな節目を迎え、今ここに臨んでおられます。緊張の中にも、夢や希望で胸いっぱいにくらませていることでしょう。幼い頃から皆さんを愛情深く、大切にはぐくんでこられた保護者の皆さまにとっても、感慨深いものがあるかと思えます。私たち教職員はもとより、すべての在校生が新入生の皆さんのご入学を心より歓迎いたします。

相愛中学校・高等学校は、1888年に設立された相愛女学校に起源を持ち、長きにわたり、大阪の女子教育の一翼を担ってまいりました。明治、大正、昭和、そして平成と、時代の変化とともに学校の様子も変わってまいりましたが、変わらないのは本学の建学の精神である「當相敬愛」がうたうところを教育の基盤に据え、生徒たちが持つ潜在的能力を十分に発揮できる教育実践を行ってきたことでもあります。

学園創立130周年の節目の昨年、全日本学生音楽コンクールにおいて、高校バイオリン部門とチェロ部門で、本校音楽科の三年生がそれぞれ第一位に選出されるという快挙を達成いたしました。また、この3月には、バレーボール部が全国私立高等学校選手権大会に初出場するなど、がんばる相愛生の躍進ぶりに、学園全体が盛りあがったところです。新入生の皆さんも、ぜひ、先輩たちに続いてほしいと期待しています。

さて、入学式にあたり、皆さんに2つお願いをしておきたいと思えます。

その1つ目は、思いやりの心やいたわりの心で行動できる生徒になるよう、努力をしてほしいということです。このことを鉛筆に例えると、鉛筆は真ん中に芯があって周りが木で保護されています。この木の役目を果たすのが友

だちです。お互いに温かい気配りによって、皆さんが明るく楽しい心で、学校生活が送れるようになってほしいと思います。

ある先生から聞いた話ですが、ずいぶん前のこと、お隣の北御堂で参拝者が体調を崩され、うずくまっていたところを、たまたま通りがかった本校の生徒が声をかけて介抱し、北御堂の職員に引き継いだそうです。後日、その方から学校にお礼の電話があったのですが、それによると、生徒は自分が着ていた上着をとっさに脱いで地面に敷いて、その方を寝かせ休ませたそうです。機敏で親切な行動に、その方はいたく心を打たれ、お礼と感謝の気持ちをぜひ学校に伝えたかったということでした。

やさしさあふれる、感動的なお話ですが、いかにも相愛生らしい、すばらしいエピソードだと思います。このDNAは、こんにちの相愛中学校・高等学校の生徒にも脈々と受け継がれています。相愛生は周囲を気配りできる、温かい気持ちを持った生徒ばかりです。新入生の皆さんも、先輩たちのように、いたわりの心や思いやりの心を持って行動できる生徒になれるよう、がんばってほしいと思います。

皆さんへのお願いの2つ目は、何事にも挑戦し、努力する人になってほしいということです。

学校では、教科の勉強以外に特別活動や部活動などがあります。これらの活動では、人とのかかわり方、集団の一員としての行動の仕方を身につけます。よいこと、よくないことの判断を的確に行い、勉強も部活動もがんばる人になってほしいと思います。学校というところは、集団社会ですから、人間としての生き方を勉強するところでもあります。また、人生をより豊かにするための基礎づくりの場でもあります。在学中は、好き嫌いをつくらず、いろんなことに挑戦し、積極的、意欲的に行動してください。「継続は力なり」と言います。どんな小さなことでも、続けて努力すればチリも積もれば山となります。この努力には、忍耐も必要でしょうし、苦痛も伴うことでしょう。また、強い気力も必要です。

ベートーベンが32歳のときに書いた日記の中に、「元気を出せ、例え肉体はいかに弱くとも、わが魂はこれに打ち勝たねばならぬ」という一節があります。人にはそれぞれ弱いところもあれば、甘いところもあります。しかし、それに屈せず、これくらいのことに負けてなるものかと、自らを励まし、自

らを奮い立たせようとする一節です。努力の後には冬が去って、春が来ます。嵐の後には青空があります。

思いやりの心やいたわりの心を持ってほしいこと、そして、自分の可能性に挑戦し、努力する人になってほしいこと、以上2つのことをお願いいたしました。今日から相愛生として、力の限りがんばってください。

最後になりましたが、保護者の皆さまに一言申しあげます。今日、少し大きめの制服に身を包み、初々しさでいっぱいのお子さまが、3年後の卒業式には、こんなに大きく成長したのかと、実感していただけるよう、私たち教職員一同、しっかりサポートしてまいります。

信頼感のないところには、教育は育たないと言われております。家庭と学校が強固な信頼関係のもと、互いに連携を取り合ってまいりたいと考えております。保護者の皆さまにおかれましても、どうか本校の教育活動や指導方針について、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成に代わる新しい年号が「令和」に決まりました。令和は、間違いなく皆さんが中心となって活躍する時代です。大きな夢や目標を持って、新入生の皆さんの学校生活が楽しく充実したものとなりますよう、お念じ申しあげ、式辞といたします。

平成31年4月5日

相愛中学校・高等学校
校長 安居 健治